自動車
解体業界の未来に向けた取り組みの紹介

2022年12月1日

一般社団法人日本自動車リサイクル機構

目　次

1.日本自動車リサイクル機構について

2.エアバッグ袋リサイクルの取り組み

3.自動車リサイクル士制度の取り組み

1. 日本自動車リサイクル機構について

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構

Japan ELV Recycler's Association

ジャエラ
JAERA

2000年(平成12年)4月発足

- 自動車リサイクル業に携わる事業者
  主に**自動車解体事業者**
  で構成された**業界の全国組織**

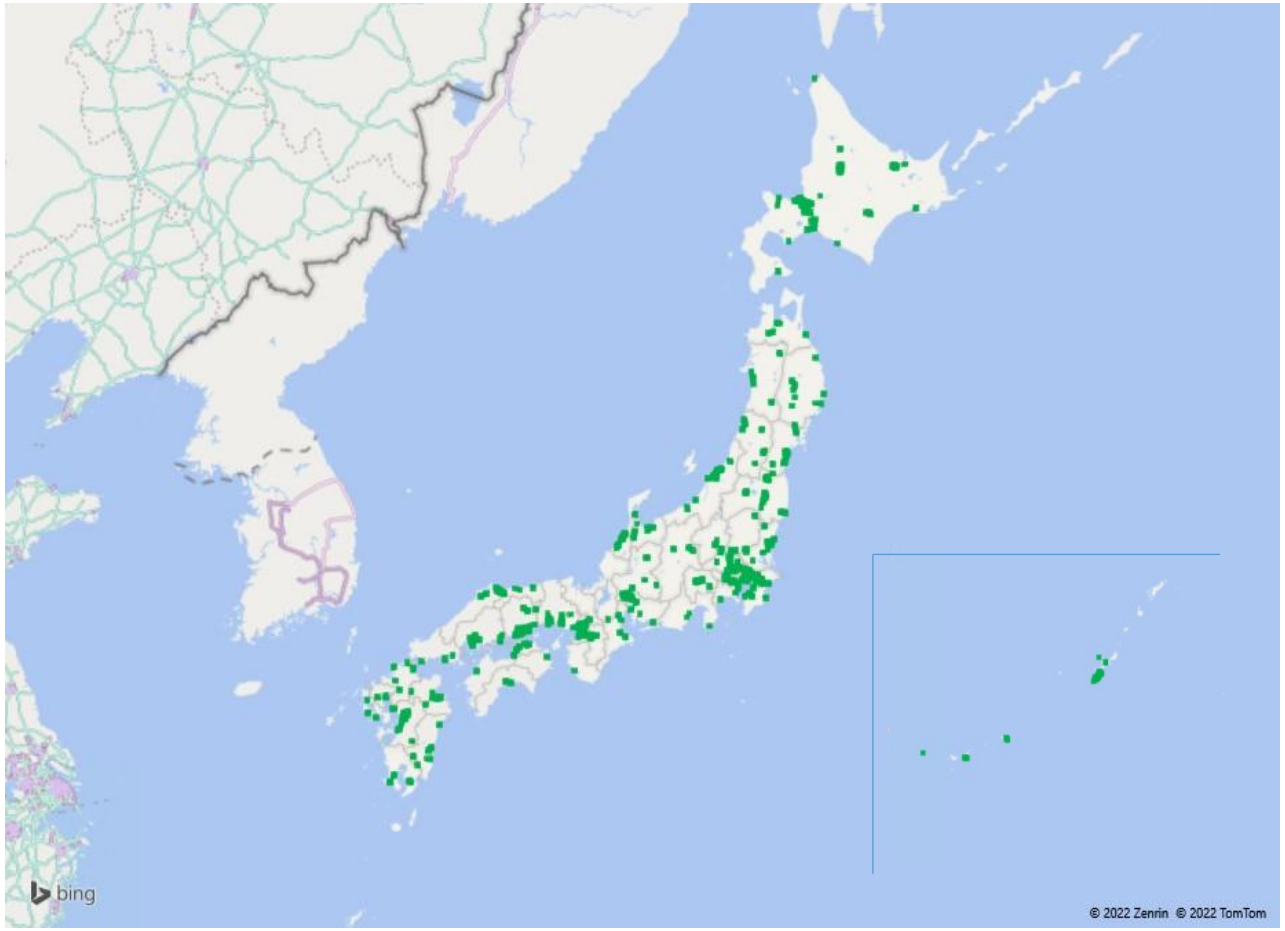
【目　的】

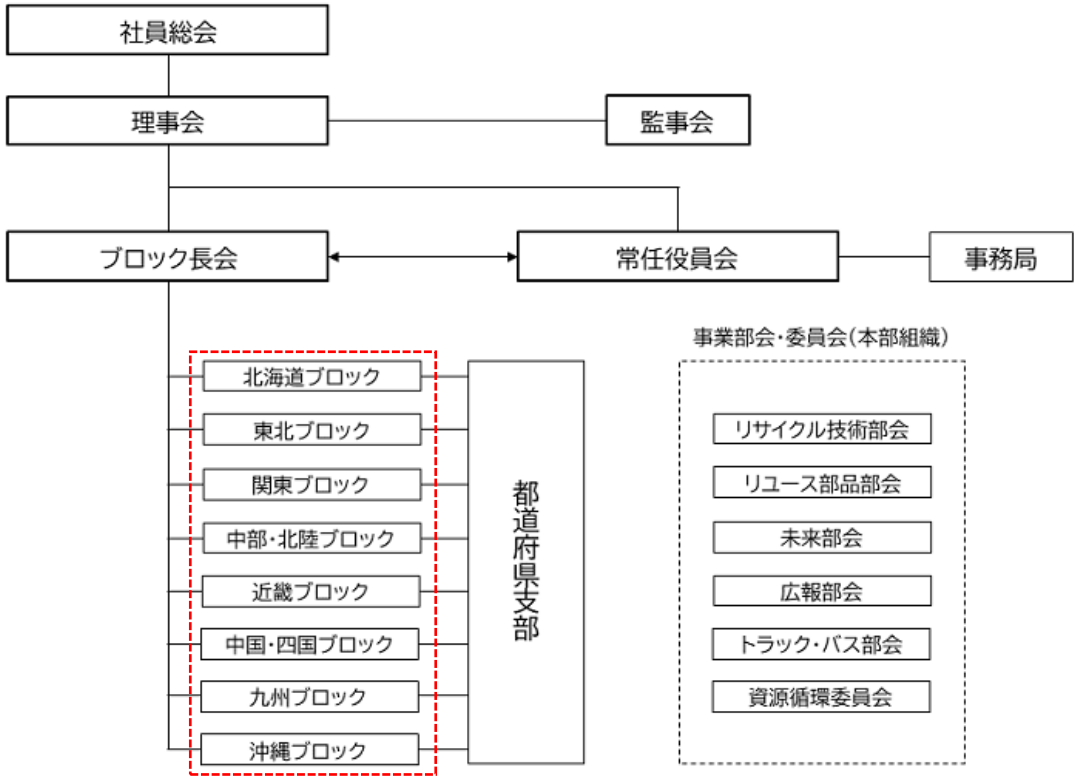
- 使用済自動車を**適正に処理**する事業を推進・支援し、
  並びに自動車リサイクル部品の活用普及と
  地球環境保全を促進し、社会貢献すること

- 関係省庁や日本自動車工業会・自動車リサイクル促進センター
  自動車再資源化協力機構などの関係機関の皆様と
  協力しながら、様々な活動に取り組んでいます。

1. 日本自動車リサイクル機構について

会員数:466社　賛助会員:25社　団体会員:2社　（2022年12月1日現在）





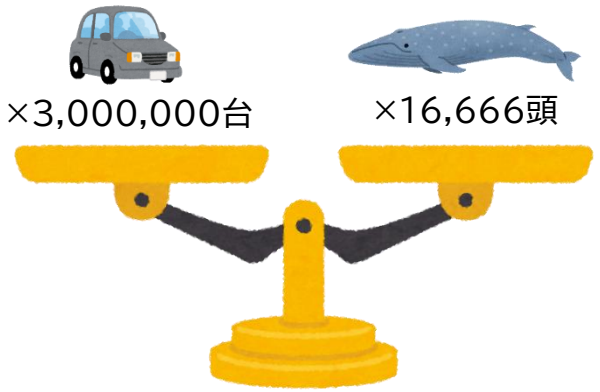
全国8ブロック

1. 日本自動車リサイクル機構について

- 自動車は全国で約**8,000**万台保有
- 年間約**300**万台が役目を終えた使用済自動車として処理

仮に1台1,000kgとした場合 ＝ **3,000,000t**

放置や投棄等されず適正に処理をされている



※シロナガスクジラ(1匹/180t)
※シロナガスクジラ地球上生息推定数5,000～15,000頭

自動車リサイクル法の下

- 自動車ユーザーをはじめ、国や自治体、自動車メーカーや関係団体など自動車に関わる全ての方々が連携することで成し得ている
- 使用済自動車を適正に処理する ＝ 資源として新しい命を吹き込む(資源の生産)
- その一役を担うプレーヤーが自動車解体事業者である

未来に向けた2つの取り組み事例をご紹介

目　次

1.日本自動車リサイクル機構について

2.エアバッグ袋リサイクルの取り組み

3.自動車リサイクル士制度の取り組み

2. エアバッグ袋リサイクルの取り組み

新しいロゴにリニューアル。アニエスこだわりのデザインで、手書きのポワンディロニーとリサイクルを意味するrecupで表現されています。

アニエスベー

トートバッグ

サコッシュ

リュックサック

☞自動車が廃車になる際に出る未使用のエアバッグを回収し、染色した生地とシートベルトをアップサイクルしたバッグです。

☞車種によって使用しているエアバッグが違う為、色ムラやシワ、マークや元の縫製が残っているため個体差があり、オンリーワンを見つけるのも楽しい発見になります。リサイクルを楽しんで取り入れる、そんなきっかけのバッグです。

販売開始時期：2023年2月店頭販売開始
各アイテム2色（黒とカーキ）

使用済自動車から回収したエアバッグ袋を生地として使用

2. エアバッグ袋リサイクルの取り組み

【どのような内容か】

- 解体の段階で使用済自動車から回収した運転席側のエアバッグ袋を回収、
  洗浄・染色工程を経て、アパレルブランドへ服飾品の生地として販売（2021年4月回収開始）

【経　緯】

リベレテキスタイル合同会社　長谷川 泰聖　社長

- 愛知県で毛織物の企画や販売に約30年携わり、2019年からは生地販売業として独立
- コロナ禍、アパレル業界は先行きが不透明であったなか「何か新しい事に挑戦したい」
- エアバッグ素材の軽さ・丈夫さの特徴　・　年間300万台もの使用済自動車が発生
- これだけの量が眠っているため、一過性ではなく持続性のある取り組みにしなければならない。

エアバッグの袋を用いたハイブランドなどの服飾品が出来上がれば、
環境的・商品的に非常に魅力的ではないか…

2. エアバッグ袋リサイクルの取り組み

【プレーヤー】

① 自動車解体事業者（JAERA中部北陸ブロック・NGP東海支部で連携）
② 就労支援施設・障害者雇用施設
③ リベレテキスタイル合同会社
④ アパレルブランド

回収・発送

① 運転席のエアバッグを
カッターで切断して回収

→

糸を解く

② 手作業で糸を
解いていく

→

染　色

③独自の技術で染色

→ **販　売** →

服飾品の素材として使用

④商品として展開

【回収実績】**7,500kg（5万枚）** 回収　※2022年12月時点

2. エアバッグ袋リサイクルの取り組み

【本取り組みの特徴】

「持続性」を重視していること

- 誰しもが知っているハイブランドやアウトドアブランドに働きかけ、レギュラー商品としてラインナップされることを目指す。
- 会社の規模や使用済自動車の処理台数に関係なく、全ての解体事業者が参加出来る。
- ビジネス的にも成立することがポイントであり、各ブランドと販売価格の交渉を重ねている。

衣服のリユースなどだけでなく、製造する商品にもリサイクル材を使用するなど、アパレル業界も環境意識が変化してきており、今後も更に発展する分野であると考えている。

この取り組みをキッカケに、使用済自動車から回収する素材が世間から注目を浴び、他の取り組みに発展するなど、未来に向けた1つのキッカケ事例にしたい。

2. エアバッグ袋リサイクルの取り組み

【JAERAとしての役割】

今後、更に使用済自動車由来の素材へ関心が高まるなかで

- 効率的な回収方法や回収スキーム
- 地域や大小関係なく、全ての解体事業者が参加可能

素材の回収には、上記の2点が特に重要

使用済自動車から余すことなく素材が回収・リサイクルされる未来

- 業界の全国組織として、解体現場の状況を踏まえつつ、
素材のリサイクル等を検討している皆様に協力・連携をしていく。

目　次

1.日本自動車リサイクル機構について

2.エアバッグ袋リサイクルの取り組み

3.自動車リサイクル士制度の取り組み

3. 自動車リサイクル士制度の取り組み

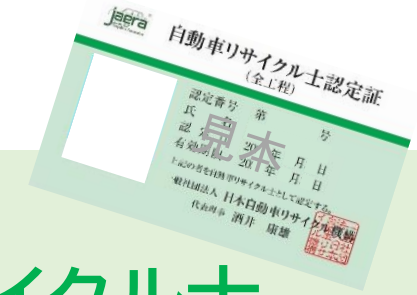
【自動車リサイクル士制度】

自動車リサイクルに関わるすべての関係事業者を対象として、自動車リサイクル法の正確な理解や自動車リサイクルに関する技術・知識の習得を支援し、その知識レベルを認定

【制度の目的】 自動車リサイクル士という人材の育成

- 業界の発展や循環型社会への貢献
- 遵法精神や適正処理の意識強化による不適正処理の撲滅
- 安全作業及び衛生管理の徹底促進

自動車リサイクル業における
模範となる人材



これらの教育内容を修了した人材

■自動車リサイクル法の理解
■安　全　作　業
■適　正　処　理

【資格】

自動車リサイクル士

3. 自動車リサイクル士制度の取り組み

資格を取得するための講習会

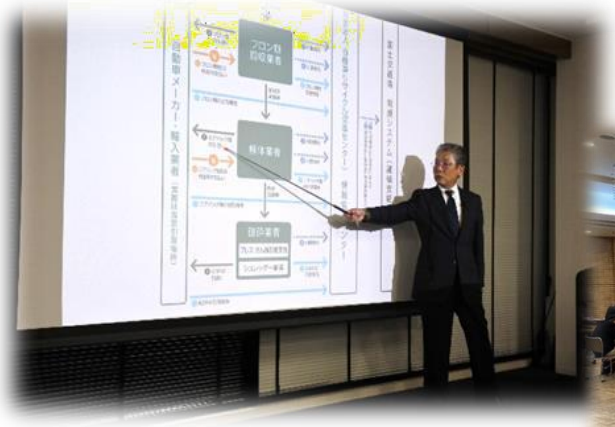
自動車リサイクル士認定講習会

を毎年開催

■カリキュラム

①自動車リサイクル制度の概要
②自動車リサイクルシステムと電子マニフェストシステム
③引取工程の実務
④フロン類回収工程の実務
⑤解体工程の実務
⑥破砕工程の実務
⑦安全作業・衛生管理

- 自動車のリサイクルに関わる知識を網羅
- 業界唯一の資格者制度



3. 自動車リサイクル士制度の取り組み

【資格者数】

887名（事業所数485社※）

2022年度講習会で1,000名超となる

2022年12月1日現在

機構会員	623名	非会員	264名
会員事業所	292社	非会員事業所	193社

※JARSで公表されている解体業許可事業所数　3,835社（2022/9/3時点）

【受講者の推移】

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2021	2022
一般受講者	会員	461	138		28	40	59	60	134	154
	非会員	51	80		12	22	75	56	80	88
	合計	512	218		40	62	134	116	214	242

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2021	2022
自治体	自治体数	87	50	32	27	4	7	6	61	96
	人数	113	57	38	31	6	8	6	99	133

※2015年度は新制度への移行のため資格の新規取得講習会は未開催
※2020年度は新型コロナの影響から未開催

2021年度から
WEBを活用した講習会
全国どこでも受講可能
受講内容の反復が可能

受講者数の増加

3. 自動車リサイクル士制度の取り組み

使用済自動車の解体にはこの先も適正処理を担う人材が必要不可欠

自動車リサイクル士の増加によって**業界全体のレベルアップ**を推進

【今後業界に求められること】

- **カーボンニュートラルへの業界としての取り組み**
- **国内資源循環の取り組み**
- **国内の自動車解体業界の生き残りと成長**

この資格制度を推進していくことが
地球環境保全を支える施策の実現に貢献する。

解体業界のみならず**自動車のリサイクル業界に関わる皆様**に
この資格制度を活用して欲しい。

ご清聴いただきありがとうございました。

一般社団法人日本自動車リサイクル機構